

検討のテーマ

「意欲ある全ての者への学習機会の確保について」

家庭の経済状況等にかかわらず、誰もが希望する質の高い教育を受けられる社会を実現することが重要であるため、以下の項目等について検討し、必要に応じて国への提言等を行う。

- ・「基礎学力の定着」 基礎学力の定着が子どもの可能性や選択の幅を拡大⇒教員の多忙化解消による教育の質の向上 など
- ・「子どもの貧困対策」 貧困の連鎖を防ぐための支援策⇒学習支援・子どもの居場所づくりの充実 など

部 会 構 成 市 の 主 な 施 策

基礎学力の定着	放課後や土日の学習支援等	放課後子ども教室推進事業 (全小学校対象、地域のコーディネーターが運営)	千葉市
		地域の寺子屋事業 (地域の団体に委託)	川崎市
		アフタースクール (全中学校対象、学習支援員を配置)	新潟市
		地域と学校パートナーシップ事業 (全市の小中特支対象、地域教育コーディネーターが運営)	新潟市
		学力アップサポート事業 (支援校の小5.6年対象、学習支援員を配置)	静岡市
		まちぐるみ「教育の絆」プロジェクト (中学校の学校協力者会議にコーディネーターを配置)	広島市
子どもの貧困対策	働きかけの家庭	「子どもナビゲーター」事業	千葉市
		スクールソーシャルワーカー活用	静岡市
		家庭支援員派遣	静岡市
	居場所づくり・学習支援	生活困窮世帯学習支援事業	千葉市、川崎市、新潟市
		生活困窮世帯・ひとり親家庭等学習支援事業	静岡市、広島市
		子どもの生活・学習支援事業(ひとり親)	川崎市
その他	居場所づくり・学習支援	「地域の茶の間」事業	新潟市
		ひとり親家庭等居場所づくり事業	広島市
		適応指導教室(ゆうゆう広場) (不登校児童生徒の居場所、ICTを活用した学習支援)	川崎市
		子どもふれあいスクール事業 (PTAと教育委員会の共催、学習アドバイザーも配置)	新潟市
		少年サポートセンターひろしま(少年サポートルーム) (補導された少年等の居場所、立ち直りに向けた学習支援)	広島市

第4回会議で提起された主な課題

一定の成果は見られるものの、支援の場等に参加できない、参加しても長続きしない子どもが存在している。

《 主な要因 》

- ◆ 保護者の考え方や生活環境等が子どもの意欲を引き出すことを阻害
 - ・ 子どもの教育に対し無理解、無関心である。
 - ・ 生活に追われ、子どもの教育に手が回らない。
 - ・ 生活困窮が浮き彫りになることへの懸念から支援に応じない。
- ◆ 支援のための受け皿が不足
 - ・ 意欲的かつ指導力のある人材等が十分に確保できていない。
 - ・ 身近な活動場所が十分に確保できていない。

第5回会議における検討の方向性

① 支援が必要な子どもについて、家庭事情や生活環境等の的確な把握
例) ・ スクールソーシャルワーカーの配置の拡充による教員との連携強化
・ 各区の家庭相談員・専門機関等との情報共有の促進によるスクールソーシャルワーカーの活動強化

② 子どもと保護者を一体的に支援するための工夫
例) ・ 子どもと保護者の両方を対象とする居場所づくり(保護者同伴で参加できる子ども食堂、学習支援等の場の設定)
・ 生活環境の改善指導等と学習支援をセットにした家庭訪問の実施
・ 生活困窮世帯等の子どもに限定せず、誰もが参加できる学習支援等の場の設定

③ 地域ぐるみで子どもに関わる仕組みの拡充
例) ・ 「学校を核とした地域づくり」に向けた協働体制の連携強化

④ 支援のための人材確保・育成や既存施設の有効活用等による場所の確保
例) ・ 意欲のある教員OB等の発掘やこうした取組に理解のある民間団体、地元企業等との連携強化
・ 多面にわたる支援人材の育成に向けて福祉と教育の両面からの研修の充実
・ 学校施設など公共施設の活用促進、公営住宅の空室や商店街の空き店舗の有効活用

家庭の経済状況等にかかわらず、誰もが希望する質の高い教育を受けられる社会の実現

意欲ある全ての者への学習機会の確保
(多様な子どもたち一人一人の可能性を伸ばすための公教育の提供)